



ノースゲートインアビラとは？

1 グループ 編集者：遠浅小学校 米津優風 中倉宏太 田代奈々 富樫祐太

ノースゲートインアビラ

工夫していること

ノースゲートインアビラは、今年の5月に建設されました。ペンションを建設したのは、夫の白川達夫さんと妻の里恵さんです。ノースゲートインアビラの由来は、「北の入り口で、北海道の中にある安平町」という意味があります。

最初聞いたときは、どういう意味かわからなかったのですが、よく読んでみると「なるほど」と思いすっきりしました。

このノースゲートをやっていて、うれしいと思ったことは、「この料理おいしかったな〜！」や「この宿よかったよ〜」などと言われることだそうです。

主に妻の里恵さんが、料理を作っているそうです。夫の達夫さんは、受け付けや予約でいっぱいになるときに、他のホテルを探してあげたりするそうです。料理には、北海道産の食べ物をつかっているそうです安平町の食べ物もいれていて、特にチーズケーキが人気だそうです。



大変なこと・がんばっていること

写真にあるとおり、右側の方がこのノースゲートを経営している夫の白川達夫さんです。左側の方は、妻の里恵さんです。

ノースゲートにいて大変なことは、お客さんに何かあったときに、夜中でも対応することです。

ほかにも、里恵さんは、料理にも気を使っているようです。料理では、季節によってメニューを変えたり、安平町の食材を使ったりしています。また、安平町で採れない物以外は、すべて安全な北海道産の物を使っています。

がんばっていることは、1つでも安平町の良さを知ってもらうために、安平町で盛んな馬のかざりや、呼び出す時に使うドアノッカーが蹄鉄の形になっていました。また、お客さんにくつろいでもらうために、ペンションに木を多く使い、家のような空間をつくるために心がけているそうです。私も、ノースゲートにとまってみたくておもいました！



感想・わかったこと

今回、私たちはノースゲートインアビラで色々なことを質問させていただきました。白川達夫さんと里恵さんは、とても優しく本当に感謝しています。

ノースゲートインアビラに行き、どこのお店でもお客さんを思って働いていることを改めて知りました。

みなさんも、是非ノースゲートインアビラに泊まってみては、いかがでしょうか。

2グループ 編集者：遠浅小学校

天野蓮太郎 芳賀優月 澤井智里

ノースゲートインアピラ

料金

豆知識

ノースゲートインアピラは、新しくできた宿です。
家のようなデザインで、とてもゆっくりと過ごすことが
出来ます。
詳しくは続きをご覧ください。

大人一人（朝食付き）で
6800円です。
以外とお手軽に止まれます。
泊る人が多いときには、
少々お高くなります。
また、人が少ないときには
少しお安くなります。

ノースゲートインア
ピラの意味。
ノース→北
ゲート→門
イン→泊まる
アピラ→安平
北の門の泊まる安平
という意味になります。

ノースゲートインアピラに取材に行ってきました

この宿は、家のような所で、とてもゆっくりできます。朝食なども作っていただけます。料理には主に北海道の食材を使用しています。この安平町に旅行に来たのに、泊まる場所がない、などという人にぴったりです。お部屋は全部で5部屋あり、どこの部屋でもくつろげます。また、部屋が満員の場合は、近くの宿を探してくれるなど、とても親切です。所々に馬の飾りがあり、安平町の特徴が引き出されています。人気メニューのチーズケーキはみんなに愛され、大絶賛です。とても美味しいそうなので、是非食べてみてください。ぜひ、この安平町に旅行に来たときには、このノースゲートインアピラに泊まってみてください。

部屋の様子

夫婦の話

感想



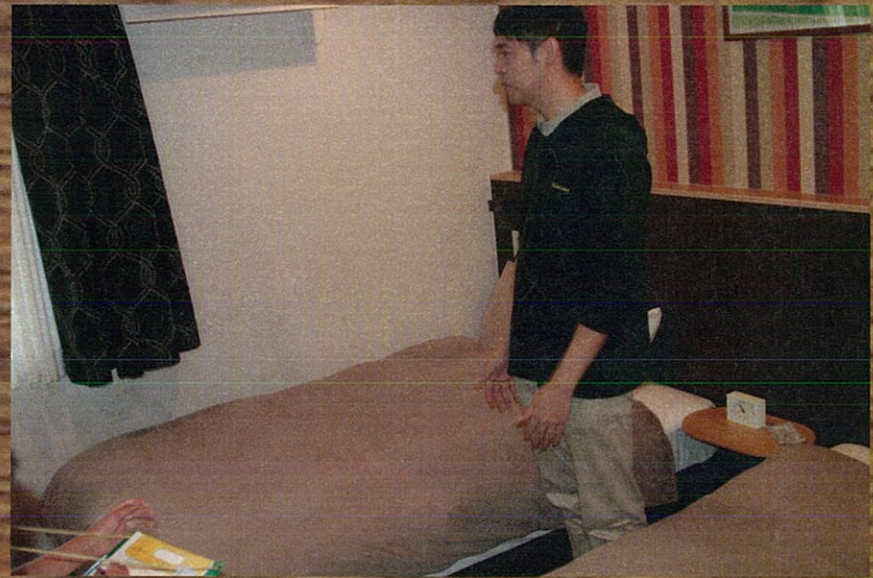
部屋はとても明るく、さわやかな印象を受けます。
そして、この安平町のきれいな景色を、
存分に楽しむことができます。
まさに、自然の中で過ごしているような気分を味わえます。
都会の騒音からのがれたい方、
ゆったりとした時間を過ごしたい方には、
とてもおすすめできる場所といえます。



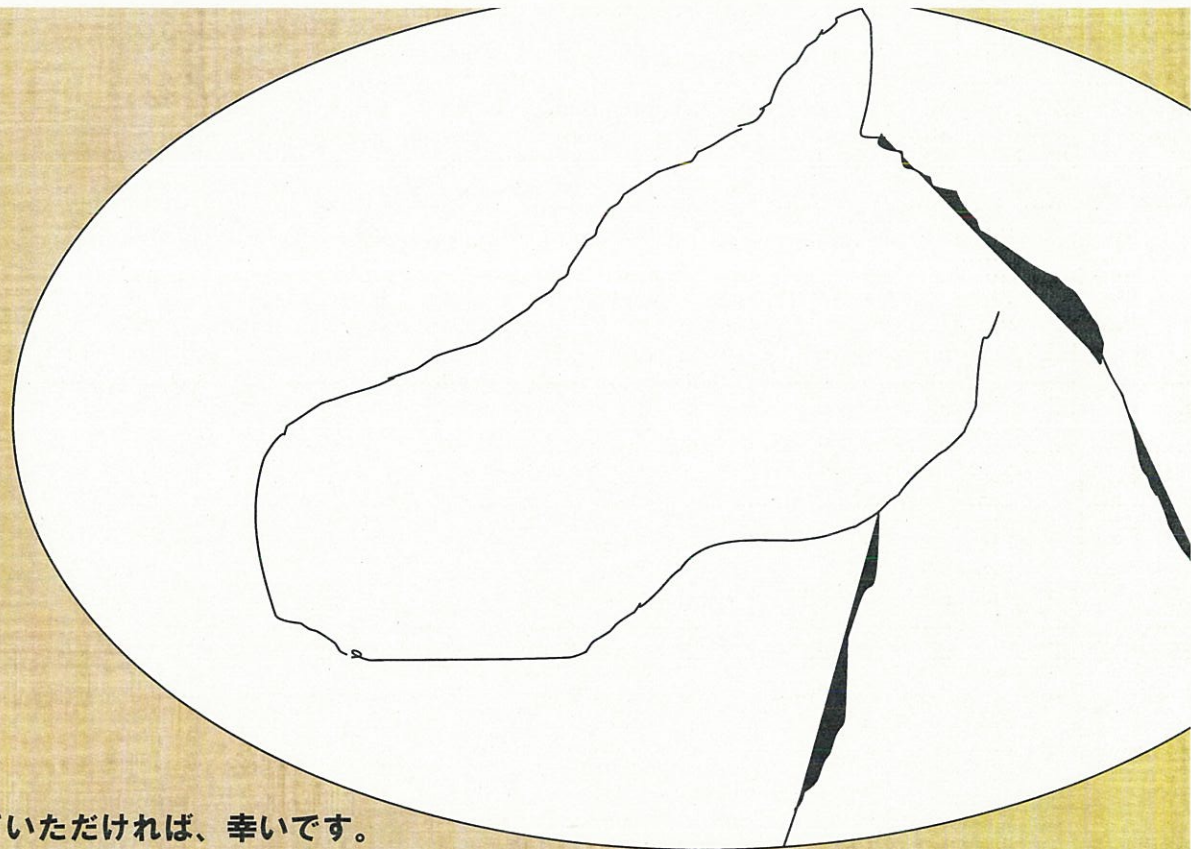
夫婦の話

私達がこの安平町に来たのは、
この土地が好きだからです。
都会にいたときよりも、
空気がきれいで、気に入りました。

また、料理を作って食べてもらったとき
に、「おいしいです」と言って貰えるのが
とてもうれしいです。



感謝 心算



今回は、無事このホームページを作成することが出来ました。
これも、ノースゲートインアピラの皆さんや、
協力してくれた方々のおかげです。
本当にありがとうございました。
このホームページを読んで、少しでもこの安平町に興味を持っていただければ、幸いです。
最後まで読んでいただきありがとうございました。

是非一度
足を運んでみては
いかがでしょうか

